

翻訳

ジョン・ノックスによる宗教改革文書 (1)

The Reformation Pamphlets by John Knox (1)

— 1556年に神の御言葉の牧者であるジョン・ノックスからスコットランドの摂政メアリへ差し出した書簡と1558年著者によって補足説明された文書(2) —

The Letter delivered to the Lady Mary, Regent of Scotland from John Knox and the Addition (2)

伊勢田 奈 緒

1. 緒言
2. 翻訳

1. 緒言

1558年の夏に発行された「摂政への書簡」は1556年5月にジョン・ノックス (John Knox, 1514-1572) がスコットランド滞在中に摂政メアリ・ギーズ (Mary of Guise, 1515-1560) に宛てた書簡の改訂版であった。〔尚、ここに訳したのは、前号、『環境と経営』第20巻第1号に掲載したものの後半のものである。: Letter to the Queen Dowager, Regent of Scotland (Augmented Version)1558, Geneva(STC nos.15067), David Laing (ed.), Selected Writings of John Knox, Edinburg, 1846, p.451-470〕

1556年の書簡からは、ノックスは摂政を説得して、プロテスタント信奉者たちと調和させ、宗教の改革を公式的寛容をもって行えるのではないかと期待し、また、摂政自身がプロテスタントへ改宗することさえ可能かもしれないと思っていたと考えられる。あくまでも、ノックスの中心的目的は、彼女の義務は神の御言葉に従って、宗教の改革を行うことであると教えることであった。しかし、1558年版の書簡からは、ノックスの態度は硬化し、摂政の夫と二人の息子が亡くなったことを、それは神の怒りと神の激しい不満の証拠として紹介し、他方、女性たちが至福と喜びを持って長く国を支配することは滅多にないことであると彼女に説いている。この二つの

書簡はノックスの政治的宗教改革思想の変化を知る史料であると共に、摂政メアリの当時のスコットランドにおける政治政策と宗教政策の変化を考察するための重要な史料であると考えられる。

2. 翻訳

Letter (手紙)

しかし、貴方様は恐らく、宗教の監督は、上級行政官たちに委ねているのではなく、彼らがそれを称しているように、司教たちや聖職者階級に委ねられているとお考えでしょう。しかし、貴方様ご自身、誤解してはなりません。というのは、司教たちが怠慢なため、誤った判断で弾圧を必要としているのです。実はそのために行政官の手が必要とされているのです。なぜなら、彼らはあらゆることに、不正に促進し、助成し、維持しているからです。偽りの不正な判断により財産は奪われ、庶民の体は虐げられています。しかも、高慢な高位聖職者たちは、その者たちのためにキリスト・イエスが血を流されたのに、その者たちを王達に殺させ続けているのです。そして、彼らは命の真の御言葉を阻止したり、あるいは、今ローマ・カトリック教会で教えられているような有毒な教義を教え込もうとしたりしているのであります。

貴方様が、普遍的に受け入れられるその宗教を私がいかに呪わしく、汚れたものだといっていることに不思議に思っておられることはわかります。しかし、閣下が、確かに(聖書の創世記の¹⁾) 初めから人間が神から墮落したことを思われるならば、(そればかりか、神が民に神の法や預言者たちによって話されたことを思われるならば)、また、貴方様が、地上の国民や人々や支配者や王たちが激怒し、陰謀し、主に反抗し、油注がれたキリスト・イエスに反対して、会議を開き、そのことに聖霊が不平を言ったとお思いなら、さらに、もし、人が、イエスご自身が「人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか」と言われたことに疑問を覚えられるならば、そして最後に、もし、閣下が神の明白な侮りを思われたり、今日、全地上の表面を罰することなく支配している神の聖なる教えのすべてが侮りだとお思いなら、それはホセアが「真実もない、慈しみもない、今日、人々の間には真実がなく、嘘、偽証、圧制がはびこり、そして、流血に流血が続いている²⁾」と不平を言っているように、すなわち、どの邪悪も別の邪悪に結ばれているからなのです。そして、もし、私は言いたいのですが、閣下が深く今日、すべての身分にはびこった普遍的墮落状態をお考えになられるのでしたら、その時、閣下は、「多くの者が呼ばれ、選ばれる者は少ない」ことを不思議に思うことはなくなるでしょう。そして、貴方様は、人々を地獄へ連れていくことに震え、恐ろしく思い始めることでしょう。聖パウロが預言した、普遍的な背信というものは、態度だけでなく宗教においても簡単に見いだされるものなのです。世の中の墮落状態は明らかであり、そして宗教は神の明確な御言葉によって判断されることもなく、測られることもなく、人の慣習や慣例や意志や同意や決心によって判断され測られているのです。

しかし、いつもむなししい人の心について熟考し判断を下してこられた神が、神を前にし

て、人々が話し合い、そして同意する宗教を受け入れてくださるでしょうか？閣下はだまされませんように。神は嘘をつくことができません。神は御自身を否定することは出来ません。神は、神ご自身の言葉によって、命令し、確証する以外、神を喜ばず宗教はないことを初めから、証言して来られたのです。聖書自体このことを述べています。「人の戒めを教えとして教え、むなしく私をあがめている」と、また、「天の父が植えなかった木はすべて抜き取られてしまった³⁾」とあります。神の最愛の御子が、肉をとって来られる前、神は厳しく、サウルやウジヤやナダブやアビフにおいて、読まれるように神の儀式や法を変えるつまらぬ企ての一切を罰しました。そして、神は今や、神の唯一の御子によってこの世の人々と話すことを開始した後、そして神は(神の言葉を⁴⁾) 聞かれることを命じ、聖霊によって使徒たちに話し始めた後、神は真の礼拝者たちに最後まで耐えることを望む宗教を確立なさったのです。いったい、神が忌まわしい偶像崇拝に対して評価なさってこられた宗教に関して、人の創意を神は今、認めることがあるでしょうか？もし、人や天使たちが、神がそれを認めるだろう、とか、あるいは、それを認めるかもしれないと言うとしたら、神御自身の真実は偽証として有罪となりましょう。この件について、神は、「あなたの目に良いと見えるものをあなたの神、主にしてはならない。しかし、あなたの神、主は、あなたに命じ、命じたものをあなたはしなさい。それに、何も加えることも、それから、減らすこともしてはならない。⁵⁾」と語っておられます。そして、新約聖書を封印しつつ、神は次のように繰り返しておられます。「あなたが持っている物を私が来るまで強く持っていないなさい⁶⁾」と。故に、この点で、未だ、そのことを再び、言わないのは残念で、そのことは、主なることであり、閣下は、多数の統治者たちと同意してはならないのであり、ある

3) マタイによる福音書15章9、13節。

4) 訳者補足。

5) 申命記4章2節。

6) ヨハネの黙示録2章25節。

1) 訳者補足。

2) ホセア書4章1～2節。

いは、貴方様は、神の王国と栄光にあつて、キリスト・イエスと共に何も持つことは出来ないであります。

Addition (補足)

サタンの悪巧みが常に精を出して、この世を目の見えないままにしておこうとしていることが分かったので、私は、かつて指摘した点に2つのことを加えることにします。すなわち、貴方様は、宗教の改革を振り払おうと試みるべきではないということです。なぜなら、貴方様は、王国内の司教たちをもっているからです。また、貴方様は、誤った慣習により人々が受け入れているものを全く完全な宗教だと判断するべきではないということです。この2つ点で、サタンは忙しく精を出しているのです。第一に、行政官の中で、宗教のことであえて認識しようとする者はいません。というのは、そのことは、教会の決定に任せられているからです。第二に、長い間、多くの会議が、多くの人々が、さまざまな国や王国が、許し、権威づけ、立証してきた、その宗教が誤っているのは、とても信じ難いからです。

行政官の義務とは何か、そして、その場合、人民が神に許されるのはどのような権力か、この私の論題は、王国の貴族と身分制議會宛にいくつかの書簡を書きましたので、退屈を避けるため、今は、第一の件について、繰り返すことはやめます。第二の件については触れます。もし、貴方様が、私が前に引用した聖書の証言を正しく考慮なさるなら、私が異議を唱えている訳を十分、ご理解頂けたことと思っています。というのは、もし、人々の意見がいつも選ばれるべきならば、神は原初の世界において不正を行ったということになります。それは、彼らはすべて心をつにして、すなわち、神に反対する魔法をかけたからです。(ノアと彼の家族は除くのですが)。そして、もし、古代にそのような場合を考慮するならば、創世記の偶像崇拜ばかりでなく、マホメットの偽宗教の方が、ローマ・カトリックより選ばれることでしょう。それは、両者とも、ローマ・カトリックの宗教よりも古く、

その上、マホメットの宗教は、ローマのいかなる教皇が三重宝冠をかぶるより前に、コーランを確立していたからです。しかし、古代に触れる時、私は、テルトリアヌス⁷⁾が「最も純粹で完全な宗教であるように。そしてそれが、非常に古いという証明である。」と言ったことに同意します。なぜなら、これは、私が、地上ですべての司教たちと一緒にの主要な点であるからです。すなわち、私が言う宗教は、(それは今日あるように) 神の前で受け入れられ、真で唯一の宗教であるということであり、それは、古さにあるのではなく、また後にキリスト教の制度という点で人によってゆつくりと工夫され、故に嫌悪すべき、忌まわしいものとなったカトリック教会でもないのです。

これは、私たちの主なる提案です。すなわち、それは、神の宗教において、神御自身の言葉のみを、重んずるべきだということです。この場合、人の権威も天使の権威も尊重されることはないのです。そして、彼らの会議については、その事(神の言葉のみを重んずるべきだ)が試みられるとき、最も敬虔な最も古い公会議が、誰のために非常に明白に語られたかを簡単に見ることができるでしょう。私は、神の言葉に確信のない、全体会議の決定よりも、(神の真理に根拠をおいている) 一人の人の意見の方が、権威があると理解します。しかし、私たちが論駁する彼らの決定の全ては、聖書の如何なる確証もなく、維持されるばかりでなく、神の真理に反対して確立されているのであります。その上、大部分はかつての会議の法に反対していることを私は、はっきりと証明できます。しかし、今は、前の手紙の残りを手短かに記すことにしましょう。

Letter (手紙)

神のメッセンジャーの一人として、貴方様の臣民たちに母のように憐れむことを(今、神の御手により高位に進まれた) 貴方様に切に要求します。すなわち、殺人者たちや圧制者たちに反対するのに用いられるための曲が

⁷⁾ 訳者補足。

らない正義と、強欲や不公平のない心と、王国や国家（神は貴方様の上に置かれたのであり、それによって、貴方様を栄誉あるものにしたのでありますが）の維持に熱心で注意深い心と、諸々の徳をもって、神の聖書ばかりでなく、ただ自然の光に照らされ執筆する著述家も、敬虔なる統治者に必要なのです。しかし、宗教が墮落したところでのやり方を改革するのを切望するのは、むなしいものです。なぜなら、人が生まれてその生涯を（墮落したところで⁸⁾）人としての務めを果たすことができないように、父である神の下、喜んで働く者には、偶像崇拜者たちの心に抵抗せず、主イエスに従わないような人はいないからです。だから、最も敬虔なる支配者であるヨシア、ヒゼキヤ、ヨシヤファトは、宗教を改革し始める前に、神のために、すべて、彼らの民に頼ろうと求めたのです。それは、体の中のお腹のようなもので、もし、お腹をこわせば、必然的に身体全体に影響を与えるようなものです。故に、（私は「宗教の改革を⁹⁾」なされるべき事が非常に必要であることをしばしば繰り返してきたのですが）、もし、閣下がキリスト・イエスとともに主張できるのでしたら、そのとき、貴方様は、神の真の宗教を管理する義務があるのです。今日、貴方様の王国においては非常にひずみをおこしているの、キリストの法のどの部分も初めの頃の力や純粋性は、残っていないのです。ですが、（私は神を賛美しますが）、私にとって、語ることは危険なことです、証明するのは簡単なことです。私は何ものをも恐れていません。それは一つには、永遠の命についての愛はこの世での死の恐怖を和らげるからであり、また、私は聖パウロと共に、（この世の喜びに触れるものとして）私の兄弟を救うため、そして、閣下の啓蒙を救うために、キリストからの罪に問われたと思うからです。事柄や働きや行いはつまらない言葉や書き物ではなく、私が証言し、告白しましょう。もし、私がほんの40日だけ、話す自由を手に入れる

ことが出来るならば。

Addition (補足)

賢く雄弁なデモクリトス書いた良く知られた文章があります。すなわち、「誉めるに値するような働きを誉めることは、誠実であると思う。しかし、邪悪なことを誉めることは、人をだます心から生じる以外ないのである。」と。そして、有名な哲学者であるテミステウスは、ローマ皇帝がJovianホールをおべっか使いたちで満たそうとすることを見て、次のように言いました。「彼らは神以上に王位を崇めていることを彼らの振る舞いで認められる」と。このことは、彼らが皇帝が敬虔であろうが不敬虔であろうが、気には留めておらず、彼らは自分が皇帝に気に入られることを大事にしていることを示しているものです。これらは、異教徒たちのものでありますが、私たちは信じている神を、彼らは知らず、また、彼ら自身、敵に対して不正をはっきりと言い表すことはできないのですが（私たちは、洗礼によって、また、私たちのキリスト教の信仰告白によってなされてきましたが）、しかし、彼らは私たち少数のものを呪ってはいませんし、また、主として支配者たちに親交があるのです。支配者や上級権力者が考案したものは何でも誉め、認め、保持するこの惨めな時代にいったい、だれが罪を犯したことを裁くことが出来るのでしょうか。そのうえ、貧しい人々を圧制し、奪い、彼らから命を取っているのです。預言者は、次のように言っています。「彼らの骨を解体して、釜あるいは、鍋の中の肉のように粉々に砕く」と。しかし、私は言いたい。支配者たちは「それは、正しい。それは国家のためである。王国を守るため、臣民の安堵のため。」と叫ぶための判断に欠けていたのではないと。最近の三階級のあり方は、「支配者は求めると、裁判官は彼自身ではなく、貧しい人の命や血を与えようとする。」と預言者が不平を言っていたとおりであります。

身分ある者が、如何に自分の心の墮落を語るのでしょうか。彼には、彼が語るものは何でも誉め、認めようとするおべっか使いがい

⁸⁾ 訳者補足。

⁹⁾ 訳者補足。

ます。そして、支配者には彼らの気に入った宗教にさせておくことは、大部分の人にとっては同じ事で、神の、そして、神の栄誉と宗教の自己犠牲の下、彼らは、裁判所との友好関係を保っているのです。しかし、ああ、悪用される支配者たちは何と惨めなことでしょう。そして、国家や帝国や王国のそのようなおべっか使いたちはなんと伝染しやすいペストであることでしょう。神は、彼らに耳を貸し、そこから生じる害を初めからペンキで塗りつぶすことを明らかにしてきました。古代著述家たちは、彼らを売春婦、カラス、よりがつつした野獣にたとえましたが、それには理由がないわけではありません。というのは、売春婦たちには、彼女らの恋人が後悔や冷静の心に戻ることに決して耐えられないように、おべっか使いたちには、たとえば、彼らが欺くことが正しい判断となることに耐えられないからです。そして、カラスが死んだ肉の目を取り出すように、また、がつつした野獣がむさぼり食べるように、おべっか使いたちが（より残忍な者なのですが）、生きた人の目を取り出し、そして、彼らの理解力と判断力の目を見えなくし、彼らをサタンにさらし、サタンのために身体と魂をむさぼり食べられるのであります。

私たちは神を冒瀆する著述家たちによってのみ、これは（語られるものでありますが）しかし、聖霊は私たちに絶対信じられる真実を教えたのであります。すなわち、それは、邪悪が国家に支配された場所では、誰もがあえて、そのことを非難しようとすることは公然と見られず、しかし、そこでは、突然、復讐や破壊が起こってくるのです。なぜなら、このことは、預言者エゼキエルによって「偶像を造っている流血の都をあなたは裁かないのか？どの統治者たちが彼らの力の限り、血を流すのか？彼らは私の聖なるものを見下し、彼らは邪悪を考案し、そして、そのことを成した。預言者たちの呪文は富んだ者を集め、その呪文において、どんなものも価値があるのである。祭司たちは狂暴に私の法を引き裂き、ずたずたにした。国の民は、だましを働いていた。彼らは貧しい者たちを抑圧し、

不当に寄留の外国人に暴力をなした。そして、私は、堀を直し、私の前の破れ口に立つ人を彼らから求めたが、だれも見いだすことは出来なかった。だから、私は、彼らの上にどつと憤りを注ぎ、そして、私の高ぶった不満の火によって、私は彼らを滅ぼした。¹⁰⁾」と述べられているからです。注意して下さい、マダム。というのは、これらは、死すべき人の言葉ではなく、永遠なる神の言葉なのであり、エルサレムにだけ語られたのではなく、罪を犯したどの国に対しても語られたものだからです。ここに挙げられた罪は全て、偶像崇拜であります。つまり、統治者たちの強欲と残忍性、邪悪な者たちを守る（偽）預言者たちの呪文、一般の人たちの偽り、裏切り、暴力、そして最後にだれも、これら残虐非道な行為に非難をしないあらゆる人々の普遍的な沈黙のことであります。

神のため、私は良心の平安をもって、貴方様を、貴方様の議会を、そして前に挙げられた罪あるこの王国の偶像崇拜者たちを許したいと思います。行われる偶像崇拜は否定され得るよりもはっきりしています。権威ある者と同じように貴方様ご自身の強欲や残忍性は、事実によって知られることでしょう。なぜなら、評判は、(大変な税金によって抑圧された) 貧しい人々の声が、ここ一外国にいる私たちばかりでなく、万軍の主の耳にまで届くことを私は確信するからであります。そして貴方様の偽預言者たちの陰謀や呪文は世の中で知られており、神が御自身を裁かれようとされる前に、貴方様に悔いることをあえて訓戒するような、神に忠実で、閣下に慈悲のある者は未だ、だれも見いだせないからであります。

私が悔い改めについて話すとき、見せかけの神聖さを示すものではありません。それは、普通、偽善者に見いだされますが、しかし、私が意味するものは、貴方様の権力を維持させ、守られるために、貴方様が、その中で養われ、そして貴方様を美しく見栄えあるものにしてきた、迷信や偶像崇拜の一切を呪いつ

¹⁰⁾ エゼキエル書22章2～3節、25～31節。

つ、貴方様の心全体から主なる神に真に改心していただくことなのです。私が言いたいのは、もし、この毒が貴方様の心を（貴方様の見せかけの人生は決してこの世の前では決してきりめかないものですが）浄めないでしたら、神の前で忌まわしいものである以外なのです。その上、さらに、私は言いたいのですが、それは、そこに、へびのこの毒（これは偶像崇拜を意味するのでありますが）が心の中に潜んでいて、色々な時に有害な実を作るのであって、おそらく、人の前では公然としていなくとも、しかし、神の前では殺人者、徴税人、売春婦という事実と劣らないほど憎むべきもののなのです。だから、私の以前の手紙で、私は、その宗教が墮落している所での改革の必要は無駄なことだと言ったのであります。しかし、私はもう一度、閣下が、深くこのことを重要に思ってくださいることを最後に繰り返します。さて、また、私の以前の手紙の残りの部分に進みましょう。

Letter（手紙）

私は、普通の人が宗教の事柄をなにか刷新しようとするのが、いかに危険なものかを知らないわけではありません。そして、私は一部には、閣下の権力は、非常に自由なわけではないのですが、しかし公の改革が必要だと思えます。もし、閣下が偽宗教の支持者たち全てに、必然的にのしかかっている永遠の危険性や呪いを考慮なさるのでしたら、その時、最大の危険性は簡単にむさぼり食べられ、小さな危険性はますます飲み込まれることになるでしょう。閣下が永遠の命の神に仕えなければならぬか、さもなければ、死やのろいの世に仕えなければならぬかを熟考なさるなら、その時、人や天使はあなたを思いとどまらせるにしても、あなたは、命を選び、死を断ることでしょう。さらに、その時、その命がただ、お一人の真の神そして神の御子であるキリスト・イエスを知ることにあると受け止め、そしてそのことと共に神の真の礼拝と栄光を伴っていること、そしてそれは、神の言葉で言い表された、神御自身のご意志の証言が必要であり、そのような栄光は、神

を喜ばすものなのであるということに心からご理解なさることでしょう。もし、閣下が前に述べた、これらのことを熱心に考えていただければ、貴方様がしようとしていることを突然なさらないかもしれません。しかし、いや、貴方様がなさるかもしれないことをすることをやめられないでしょう。閣下は急いで、迷信を廃止することはお出来になれないでしょうし、無駄な主任司祭を職務から取り除くことはお出来になれないでしょう。預言者エゼキエルは公の改革には必要であると語っています。しかし、もし、閣下のお心に神への賛美が強くおありでしたら、貴方様は、邪悪な法による偶像崇拜を維持することもないし、過去の時代において、習慣化してきたように、キリストの体である哀れなメンバーたちを殺したり、むさぼり食べたりする司教たちの激怒に苦しむこともないのです。もし、貴方様が、目が見えず無知によって行ったり、まだ、この王国内の他の人の楽しみのため、なされることをお許しなさるのであれば、貴方様が速やかに悔いられる以外、貴方様や貴方様の子孫は、突然に貴方様を高位にあげた神の御手を憂鬱なものとして、お感じになることでありましょう。貴方様が戦うことを述べた永遠なるものは、神であり、時を適度に加減し、王国を配置し、従わないような権威を斥け、神の満足に従って、他人を置くのは、神であり、神を称えるものを称え、神の恵みに反対する反逆者が捧げた統治者たちに軽蔑を注ぐのは神であることを貴方様が欲しようが欲しまいが、知られることでありましょう。

Addition（補足）

この包みの書簡を通して、私は貴方様を神からそして、神の真の服従から呼び返すことへの妨害を思い起こしました。また貴方様が、どんな場合に神の前に畏れおののき、神の栄光を促進するため、この世の栄光をすべて失うことを企てなければならぬかを考慮してきました。私は、貴方様の権能は、特別に不安定に、ただ借りておられるにすぎないと思うのであります。というのは、貴方様が、そ

れをただ他の人々の許しによって、持っているに過ぎないからであります。そして、滅多に女性たちが至福と喜びを持って、長く（国を¹¹⁾）支配するという事はないことだからです。なぜなら、自然は女性たちに良い政府が変わらず続く風潮を与えないように、神は、女性が男性を支配することを決して、認めず、激怒と憤りを発してきたのです¹²⁾。貴方様の非常に特別な友人たちは、さらにこの世のむなしさによって目が見えなくなり、その上、ローマの売春婦の杯を飲まされ、キリスト・イエスと神の真の宗教の不倶戴天の敵になっているのです。これらのことは、恵みによる確証のない一女性の心を簡単に当惑させるかもしれないのであります。しかし、もし貴方様が私と共に、神の栄光のため、すべての危険を冒さなければならぬ理由をほんの少しでも考慮してくだされば、先に挙げた恐怖は、たちまち消えることでありましょう。

私は、偶然、他に起こっていることが最大のことでありと見なしてはいません。すなわち、もし貴方様が、宗教のことの何かを刷新しようと試みなさるのでしたら、その時、貴方様の権威もまた、貴方様の現世的友達も失うことでしょう。私は、さらに、すなわち、神御自身がすでに、貴方様に貴方様のご子孫に、そのうえ、支配している王国全体に、怒りを述べ始めている神の裁きを見るのであります。最初、貴方様のお二人のご子息様たちが、突然、6時間内に命を奪われ、さらに、後に貴方様の御夫君様が、いわば、暴力によって、命と名誉が奪われ、その名前の記憶と継承と王位が彼御夫君様自身とともに無くなったことを運命のせいにしてはなりません¹³⁾。なぜなら、侵害する迫害あるいは、むしろ、いくつかの王国の暴政は、女性が彼らの父祖の名誉を受け継ぐことを許してきたからであります。しかし、彼らの栄誉は一外国人の家に移

されなければならなくなるのです。故に、私が言いたいのは、王国自身と共に王国の名も継承も王位も葬られることになるということです。そして、ここにおいて、もし、貴方様が、神の怒りと激しい不満を認めないのでありましたら（同じ災いで、貴方様と貴方様のご子孫を脅かすでありましょうが）、貴方様は、私が思っている以上に頑固になれることでしょう。神が大きな理由もなく、そのようなまれな災いで王国や国家を罰して来られなかったのでありますし、また、神は（貴方様を）気落ちさせ始め、前の罪の復讐を見つけられるまで、家の名誉や栄誉を回復しようとはなさらなかったことを貴方様ご自身、深く、じっくりと考えるべきだと私は思います。

貴方様は、たぶん、貴方様の御夫君様において起こったことにおいて、貴方様に、あるいは、神がひどく貴方様を罰した王国に、どんな罪があったかと疑念をもたれることと思えます。私は答えます。それは神の聖徒の（彼らは、そのことを苦勞して知らせ、強く非難したのであります）流した血をもって、多くの恐ろしい偶像崇拜を維持し守ってきた罪です。このことは、私は言いたいのですが、（他の邪悪なことは省きますが）非常に神の目の前で罪が大きいので、そのため、神は王たちや彼らの子孫から、永久に名誉と尊厳を奪い、彼らに非常な復讐を注いだのであります。列王記の歴史によって非常に明かに示されているのですが、すなわち、ヤロブアムについて「私はあなたを民の中から高位につけ、私の民イスラエルの支配者とした。私は、また、偶像崇拜のためダビデの家から、王国を裂いて、あなたにそれを与えた。しかし、あなたは私の僕ダビデのようではなかった。」等、そして「しかし、あなたは邪悪なことをなし、とりわけ、あなたの先に行った。あなたは自分のため、他の神々や鑄造の像を造り、私を怒らせ、わたしを後ろに捨てた。だから、わたしは、ヤロブアムの家に苦痛をもたらし、わたしは、壁に対して小便をかけているすべての（男の子を意味するのであるが）ヤロブアムに属する者を滅ぼすであろう。そして、

¹¹⁾ 訳者補足。

¹²⁾ イザヤ書3章。

¹³⁾ メアリ・ギーズの二人の息子は1541年4月に突然、数時間内に亡くなり、夫のジェームズ五世も1542年12月に亡くなっている。彼女のたった一人の娘、メアリー・スチュアートは生まれてから六日目に即位した。

汚物がなくなるまで、投げ出されるようにヤロブアムの子孫も投げ出すであろう。¹⁴⁾」と述べられています。この宣告は、この偶像崇拜者に対する死刑宣告であるばかりでなく、次から次へと続く王国における、偶像崇拜者たちに対する宣告でもあるのであります。というのは、バシヤに対して、神は、ヤロブアムの子孫を根絶する手段としてこのことを用いました。つまり、「あなたは、ヤロブアムと同じ道を歩き、私の民イスラエルに罪を犯させ、彼らの罪によって私を怒らせた。だから、私は、バシヤの子孫と彼の家の子孫を滅ぼし、あなたの家もヤロブアムの家と同様にする。バシヤに属する者は、町で死ねば、犬に食べられ、野で死ねば、鳥にむさぼり食べられるだろう。¹⁵⁾」とあり、エラとアハブは、同じ運命の杯のため、同じ理由のため、さらに、イエフの子孫も彼らの父祖の足跡をたどったのでした。

これらの例によって、貴方様は、偶像崇拜が、神が支配者たちの子孫を滅ぼした理由であることをはっきりと認めるでありましょう。最初の忌まわしい行為を行った者ばかりでなく、彼らに続きそれを守った者たちにもなされるのです。マダム、神は貴方様から厳しく取り上げることを始められました。つまり、二人の子供たちと夫と一緒に、取り上げられたことを考慮してみてください。私は言いたいのですが、神は神御自身がお怒りになられていることを告げ始めたのであります。貴方様は神の目を怒らせないようにお気をつけください。神の面前で貴方様の大義を正当化できるのは、見かけがおうへいな高慢な人々や、権力ある貴方様の友人ではなく、また大衆でもないのです。もし貴方様が、神に対して反逆することをお考えになられるのでしたら（そして、もし、貴方様が、神の名の下、私の非常に小さな要望を否定なさるのであれば、それは神に対して貴方様が反逆なさっていることなのです。それは、私自身、危険を冒しながらも、私は、今、貴方様が維持して

おられる、誤った、人を欺かせる宗教と神の前の忌まわしい行為について、神の恵みと絶対信頼できる聖なる御言葉の非常に明確な証言により、証明しようと申し出ているのであります。)、私は言いたいのですが、もし、貴方様がこれを（神に対して反逆することでありますが）否定されるのであれば、神が貴方様と貴方様のご子孫の敵であることを宣言するとき、貴方様のご友人の支持は、ほとんど役に立たないことでしょう。そのことで、もし貴方様が、神に対する敵意の旗印をお示しになられるなら、貴方様ご自身に、神がまもなく、このことをなさることで貴方様は確信することでしょう。貴方様は、他の子孫たちに、つまり、君主たち、女王たち、王たち、皇帝たちであります。神と神の誠実な訓戒を侮辱するようなことを敢えて、なさらないで欲しいのです。神が彼らの地位を任じたのではあります。彼らは神の怒りの杯を飲みました。慈悲にあつて、（貴方様の隣にある王国以外であります）神は貴方様と貴方様の王国になされたように、神の恐ろしい鞭でしっかりと打たれる王国はありませんでした。故に、まず、貴方様は、屈服なさることになります。貴方様が預言者イザヤにより実証された脅威の宣告を除いては。すなわち、「あなたの突然の崩壊は崩れた壁のようであり、あなたの崩壊は、容赦なく壊された陶器の破片のようであり、その破片からは、火あるいは、水も運ぶこともできないようである。¹⁶⁾」と述べられています。それによって、預言者は、神を高慢にも軽蔑する者や神の訓戒を軽蔑する者が、あらゆる名誉心のために滅びることを、そして、彼らはこの世における彼らの背後にある記憶に何も価値をもたなくなることを示しているのであります。その上、もし、彼らが、何かを残したとしたら、それは無駄なもので、呪いの中にあつて、神の選びは憎しみになることなのです。さて、私の前の手紙に進むことにしましょう。

¹⁴⁾ 列王記上14章7～10節。

¹⁵⁾ 列王記上16章2～4節。

¹⁶⁾ イザヤ書30章13～14節。

Letter (手紙)

神に従い、悪魔や、暗闇、プライドや迷信の統治者に対して闘う人間は如何に危険であることか！もし、閣下、貴方様ご自身を楽しむことを望み、今もまた永遠に名誉を持ち続け、全能の神のご支配の下、貴方様ご自身を時代に仕えるならば、神の御旨を受け入れてください。神の福音書を見下してはなりません。示された神の恵みを拒んではなりません。神が貴方様を求める時、貴方様の耳を引き離してはなりません。むなしい意見に盲従してはなりません、そして、貴方様の教会は罪を犯してはなりません。貴方様は、生活において、キリストの真の使徒たちから墮落し、宗教においてもさらに墮落している者たちに福音が説かれるようにしてください。貴方様の目の前の、神の書に目をおき、そして、私が言うことを判断なさってください。もし、貴方様が恐れや崇敬を持って、従ってくださるのでしたら、ヨシアが預言者たちの訓戒にそうしたように、その時、神は（神によって王たちが支配しているのですが）貴方様の戦いに二重の祝福をもって王位に就かせられ、貴方様のこの世の統治において、知恵と富と栄光と名誉と長寿をもって、貴方様に報われることでしょう。そして、永遠に続く命を持って、すべての王の中の王（今、そのメンバーたちが貴方様を求め叫んでいるのですが）である主イエスが、神の天使たちを伴って私たちを裁くために現れる時、その方の前で、貴方様の現在の統治を評価してくださるでしょう。その時、高慢で不服従の人々は、「山々は私たちに落ち、主の御顔から私たちを隠す。」と叫ぶでありましょう。しかし、その時では、もう遅すぎるのです。なぜなら、神が愛情を込めて呼んだ時、彼らは神の声を侮辱したからであります。

わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、聖霊の力によって、貴方様の心を動かし、彼らが貴方様の正当な有罪の決定の証言ではないと言った事柄を考慮し、受け入れさせ、そして、全能なる神、主イエスの裁きの日には、私は、閣下に誠実にお委ねします。

Addition (補足)

預言者エレミヤは神の命令で、イスラエルとユダに対して語ってきた脅迫や疫病について、神が語る言葉を書き記し、彼らに命じて、彼の書記であるバルクによって読まれました。なぜなら、彼自身、破門され、神殿に入ることを禁じられていたからであり、神の摂理によって、このことは伝えられ、ゲマルヤの子ミカヤは、語られた神の言葉を聴き、王の家に伝え、残りの支配者たちにそのことは伝えられ、彼らはまた、エレミヤが説教した同じ巻物を読んだ後、その当時エルサレムを統治していた王ヨヤキムに真実を隠しませんでした。しかし、高慢で向こう見ずの支配者は、命じてその巻物を彼の面前で読ませたのです。彼はその巻物の3、4枚を聞かない内に、それを切り、火の中に投げたのでした。にもかかわらず、その支配者の中には巻物を燃やさないように懇願した者（全部とは思いませんが）もいました。しかし、預言者は、神によって命じられて再び書き記し、王ヨヤキムに「主はこう言われる。『お前はここの巻物を燃やしてしまった。なぜ、この宣告に従ってそれを書いたのか』と。必ずバビロンの王が来て、この国を滅ぼし、人も獣も絶滅させると書いた。だから、主は王ヨヤキムにこう言われた。『ダビデの王座につく者は一人もいなくなるだろう。彼らの死体は投げ出されて、昼は熱に、夜は霜にさらされる。（それによって、預言者はひどく深いさげすみと残酷な苦痛を示しているのでありますが）そして、王と、その子孫と僕たちの邪悪を罰し、彼らとエルサレムの住民たちとユダの人々にわたしが彼らに対して告げてきたすべての災いをくだすであろう。彼らは聞こうともしなかったからである。』」¹⁷⁾と告げました。

これは、マダム、その時代のために書かれたのではなく、そういった罰がそのような軽蔑する人の財産や社会的地位や身分をいかに持ちこたえられるかを確信するためなのです。私は、以前に貴方様に、良心を証明することを、神の恐れの中で行い、聖霊の働きに

¹⁷⁾ エレミヤ書36章29～31節。

よって、それを行ったと書きました。(合法的で神の栄光に属している信仰の同胞たちの要求に対して、私は聖霊の声だと判断せざるを得ないのでありますが)。しかし、貴方様が、私が前に書いたものをいかに受け取ったかを私は、推測の他、理解できないのです。貴方様がそれを最後までお読みくださったかどうか、私には、不確かであります。私が知っていることの一つは、貴方様が貴方様の高位聖職者の一人にそれを渡し、「枢機卿、この風刺をお読みなさい。」とおっしゃったということです。私は寛容な心を持って、最高の意味で、このことを(疑わしく語られているのですが)解釈をしようとしています。しかし、神に対する私の義務から(神は地上における支配者にへつらってはならないと命じられるのですが)、私は次のように言わざるをえません。もし、貴方様が、神の警告を尊重せず、枢機卿たちが風刺文のあざけていることもお考えにならないなら、貴方様が同じような仕方ですら冗談を言うておられなくなるようなメッセンジャーたちを、神はまもなく貴方様におくることでありましょう。私、個人として見解を述べさせていただきますと、私は、敬虔なる人々がローマのパスキーノの像に父を置くというスポーツを楽しいものとする風刺¹⁸⁾よりも、恐ろしいものを認められないということです。しかし、マダム、もし、貴方様が、神が人を(さらに、身分が低く、公然と最も卑しむべき平民たちであります)神のメッセンジャーたちとして用いて、神の意志を普通の人々に知らせるためにばかりでなく、非常に高慢な暴君や勢のある支配者たちを非難するためにも用いるとしたら、そのとき、貴方様は、その酒を外観や容器の材質によって判断しないでありましょう。というのは、貴方様は、多くの極上のワインが、もろい木製の酒樽に入れられ、高価な軟膏がしばしば、粘土製の壺に入れられているのを知らないからであります。さらに貴方様が、

神が王国の罰に何も触れず、また、自分の心の欲望などを殺して、人の判断ではなく神に時々語るように強えられる神の言葉を語る預言者たちが現れないとしたら、そして、もし、このことを、貴方様が重要視なされば、その時、貴方様は、(神が¹⁹⁾)現れないということをおそれることになるでしょう。

エリヤはただの人であります、聖ヤコブが証言しているように²⁰⁾、彼と同じような人でありました。彼が祈っているとき、偶像崇拜者のアハブとイスラエルのすべての人は3年6ヶ月罰せられました。神は天を開けて地上に雨も露も降らせませんでした。そして、最後に神は、エリヤを通して働かれ、最初バアルの祭司たちをまごつかせ、その後、正當に罰せられました。そして、イゼベルが預言者の血を求め、彼女は呪いによって、預言者の死を決定しましたが、しかし、彼女はその計画をだめにして、彼女自身の骨を犬どもに隠しておくことは出来なかったのです。預言者が、(神がエリヤの語る言葉を支配しているのですが、)その罰を、その前に、その邪悪な女(イゼベル²¹⁾)に行うように命じていたのでした。マダム、今日、神のメッセンジャーたちは、目に見える奇跡を用いて、送られてはいないのではありますが、彼らが教えてきたのは、世の初めから奇跡を持って確証されてきた教義にほかならないのであります。しかし、彼らの大使が罰や復讐を免れるという侮辱に神は、(神は最後まで神の哀れで小さな群れを引き受けることを約束したのであります)耐えることが出来ないのであります。というのは、真理それ自体が次のように言っているからです。「あなた方に耳を傾ける者は、私に耳を傾け、あなたがたを拒む者は私を拒むのである」と。マダム、私は貴方様に対し、前の手紙で語りませんでしたし、今も語りません。風刺の件は、教皇や世俗の枢機卿たちに対してであります、これについてはあえて彼らの名前は言いません。しかし、私は、キリスト・イエスの名前において、貴

18) ローマのパスキーノの像に年に一度、落首などを貼ることが行われていて、教会と国家の最高高官に対しての皮肉や攻撃の言葉が記されていた。

19) 訳者補足。

20) ヤコブの手紙15章17節。

21) 訳者補足。

方様が維持している宗教は呪うべき偶像崇拜であることを確信するようになりました。そして、私自身、神の聖書の最も明らかな証明によって言えることを申し出たいのであります。この反目の中で、私は王国内のすべての教皇主義者たちに反対することを表明いたします。私が望むこととは、神の聖なる言葉と私が語る自由にほかならないのであります。神は貴方様の心を動かし、貴方様が、私の要求を理解し、真理を知り、偽らずに真理に従いますように。アーメン。

ヨハネの黙示録21章6－8節

「私ははじめであり、終わりである。私は渇いている者に、命の水の泉から自由に飲ませよう。うち勝つ者は、すべてのものを受け継ぐ。そして、私はそのものの神になり、そのものは私の子となる。しかし、臆病なもの、不信仰なもの、忌まわしいもの、殺人者、淫らな行いをするもの、魔術を使うもの、偶像崇拜者、すべて嘘を言うもの、このようなものたちに対する報いは、火と硫黄の燃える池である。それが、第二の死である。」

